

第2回

札幌らしいコミュニティ・スクールの 在り方検討会議

議 事 録

日時：令和5年3月30日（木）14時30分～16時30分
場所：STV北2条ビル6階 A・B会議室

1 開会

○事務局（教育課程担当課長） 本日は、皆様ご多忙の中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

本日の会議につきましても第1回に引き続き、公開の会議とさせていただいておりますのでご承知おきください。

また、本日はどの視察先でも重要とされていた「熟議」を皆さんに行っていただきたいということから、3つのグループに分かれて座っていただいております。

詳細につきましては、会議の中でご説明させていただきます。

続きまして、資料の確認をさせていただきます。

■議事次第

■資料1 委員名簿

■資料2 在り方検討委員会設置要項

■資料3 本日の進め方（案）

以上となりますが、資料に不足はございませんでしょうか。

それでは、第2回検討会議に移りたいと思います。東間委員長、よろしく願いいたします。

2 議事

○東間委員長 それでは、これより第2回「札幌らしいコミュニティ・スクール在り方検討会議」を開催いたします。

それでは、議事に入りたいと思います。まずは事務局から「今後の進め方及び本日の会の進め方」について、資料の説明をお願いします。

<議事次第及び資料3に基づき事務局（学びのプロジェクト担当係長）から説明>

○東間委員長 ただいま、事務局から今後の進め方などにつきまして、第3回、第4回については、札幌市教育委員会が計画素案を示したうえで、5月以降にあまり間をあけずに協議をしたいというご説明がありました。そして、本日の進め方については、視察を踏まえて、皆さんの理想のコミュニティ・スクールやその実現にあたっての懸念についての熟議を実施するということが提案されましたが、この進め方でよろしいでしょう

か。

(異議なし)

ありがとうございます。それでは、時間も限られておりますので、さっそくグループごとに熟議を始めたいと思います。

最初のテーマは視察を踏まえて、コミュニティ・スクールに期待すること、それから理想のコミュニティ・スクールとは何かなどについて、話し合いを進めていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

<熟議>

○東間委員長　すごいですね、初めて熟議する感じではないくらい、非常に意見がたくさん出ておりました。

せっかくですので、それでは、各グループでの協議結果の発表を始めたいと思います。それで皆さんと共有したいと思うのですが、いかがでしょうか。

(発言するものなし)

それではさっそくですが、私たちのグループAの話し合いから共有させていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

○新津委員　私たち、グループAでございます。私、西陵中学校の新津と申します。よろしく願いいたします。

私たちのグループは、ジュニアリーダーの間所委員の意見を皮切りに、それに繋がるような意見をどんどんメンバーで出していきました。

最初に間所委員は「学校の施設を開放して、そこに地域の方も参加して、交流ができると良いのではないか」という意見を出してくださいましたので、そこからいろいろな意見が出てきました。「繋がる」とか「開く」というところがキーワードになるのではないかと思います。

まずは「地域の方が参加するなかで、子どもたちも地域の活動に参加しやすい」とか、「子どもと大人の意見がまざりあって活動がされていく」だとか、「いろいろな施設を開放して、話し合うなかで、それぞれの繋がりができていく」など話し合いが深まったところです。

そのあとは「地域の活動で子どもたちがいろいろな体験をさせてもらえるような、そ

ういった場面があると良いのではないか」という意見が出てきました。そういった場面で、子ども会やジュニアリーダーなども関わりあって、地域に対する子どもたちの垣根が低くなり、いろいろな活動に参加していけるようになって、学びや体験が豊かになる、体験を通した学びが深くなっていく、そういったコミュニティ・スクールを目指していけると良いのではないのでしょうか。

町内会ごとの活動というのがありますが、町内会も一緒になって、コミュニティ・スクールの括りとなれば、町内会同士の壁も低くなったり、合わさることができるのではないかといた話がありました。

それから、例えば小学校の運動会の際に地域の方や大人たちが参加できるような競技があると良いのではないかという意見も間所委員からありました。高齢の方も参加できる、ちょっと怪我の心配もあるのですが、そういった行事に参加することで地域の方たちがみんな仲良くなれる、顔見知りになれるということも大事なのではないかなということ。子どもたち自身も町内の方に自分が大切にされていると実感できる、ウェルビーイングという言葉もありますけれども、そういったところでコミュニティ・スクールが役に立っていれば良いのではないかな、といったところで話し合いが進んだところです。以上Aグループでした。

○東間委員長 ありがとうございます。では続きまして、グループBお願いいたします。

○小田委員 Bグループです。話をしながら、付箋に書いて、トランプゲームをしているように次から次へ1枚ずつ1枚ずつ繋げていくと、このような括りを作ることができました。

まず模造紙の真ん中です。コミュニティ・スクールによって明るい子どもたちになると良いよね、全ては子どもたちのためになるようなコミュニティ・スクールになると良いよね、そのためにはどうすると良いのかということを考えました。

1つは「連携の強化」です。地域同士がお互いに知っているとか、地域も学校もウィンウィンの関係になっていくとか、地域の意見がもっともっと学校に通っていけば良いとか、学校と地域もそうですが、地域同士の連携や繋がりが出てくると明るい子どもたちになっていくだろうなという意見が出ました。

住民が自分たちで参画してくると、人材の発見にも繋がっていくだろう。また地域の核となる、地域の活性化にも繋がっていくだろう。住民の参画がうまくいってくると、

そのこと自体がまた子どもたちのために繋がるだろうという意見がありました。

もう1つは「コミュニティ・スクールでやっていくことが、ずっと続いて持続していかなければ、単発で終わってしまう」ということです。そのために双方の負担感がないほうが良いだろうということや、朝里中学校に視察に行ってみましたがコミュニティ・スクールのメンバー同士非常に仲が良かったことがあげられました。メンバーの仲が良いとまた来たくなる、そこで熟議を重ねて子どもが明るくなったという状況が見えてくると、また熟議をしに来たくなる、そういう持続可能な組織を作っていくことが大切なんだろうなと思います。

地域全体で子どもたちが変わってきたよね、明るくなってきたよねということがわかると、それ自体が学校の改革にも繋がるし、地域で子どもを育てているという意識が膨らんでいくと、安心して子どもを育てられる地域ということで少子化対策にもなるのではないかという話が出口副委員長からありました。

あまりうまく表現できなかつたのですが、とても楽しい熟議をすることができました。勉強になりました、ありがとうございました。

○東間委員長 続いて、グループCをお願いします。

○駒ヶ嶺委員 Cグループの駒ヶ嶺です。うちも高校生ジュニアリーダーの藤田委員の意見を中心に意見をまとめさせていただきましたが、やはり皆さんと一緒に我々も中心は「子どもが主語、生徒が主語」ということで、学校の本懐は子どもの成長に繋がっていくということがコミュニティ・スクールの理想像だと思っております。

理想像を達成するにあたっては、当然ながらそれを引っ張るリーダーがいて、コミュニティ・スクールとは何だということが熱く語れる、熱く伝えられる、そして熱く進められる、そういった関係者がいることがコミュニティ・スクールが理想として成り立つための大切なことだと思います。

そのうえで、地域の方々と一緒に進んでいくと、地域が繋がり、学校と地域が一体となっていきます。子どもたちの居場所が作られる、仲良くなる、関わる人たちが多くなる、そして子どもたちの成長に繋がっていくということが大事になってくると思っております。

さらに藤田委員より「じゃあ期待されることって何だろう」という問いかけがあり、学校が開かれるとか、休日の教室開放とか、運動会を地域でやるとか、いろいろなことができていくよねと話が膨らみました。理想が達成されれば、当然期待に繋がっていく

ということで、多様な学びができて人間力の育成に繋がっていくということがコミュニティ・スクールで達成できるのではないかとまとめました。以上です。

○東間委員長 ありがとうございます。Aグループも、Bグループも、Cグループも共通なのは、やはり子どもを中心に据えて、そのために何ができるか何をしたいかということが、具体的な理想を語りながらも、繋がってくるキーワードがたくさん出てきたような気がします。

やはり子どものためにそれぞれが手をつないで、繋がって、そして開いて、垣根を低く、顔見知りになって、いろいろな楽しいキーワードがありました。

何か札幌らしいコミュニティ・スクールって楽しそうだな、できそうだなという熟議ができたと思います。

それでは、次のテーマに移る前ですが、事務局としても視察の振り返りをまとめていると先ほど伺いましたので、その資料の配布と説明をお願いします。

<追加配布資料に基づき事務局（学びのプロジェクト担当係長）から説明>

○東間委員長 ありがとうございます。次の熟議のテーマは理想のコミュニティ・スクールを実現するための懸念や対応策ですが、一般的な議論だけでなく、今日ご参加いただいている皆さんそれぞれの各お立場を踏まえて、懸念などを出していただいで話し合っていただけだと思います。

それでは先ほどと同じように熟議パート2をはじめていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

<熟議>

○東間委員長 各グループ楽しそうな声や、大丈夫かな？という声、いろいろな表情がありました。ありがとうございました。

それでは、各グループでの協議結果の発表をまた始めたいと思います。まずは、私たちのAグループから話し合いを共有させていただきたいと思います。

○新津委員 たくさんのお話が出てまいりまして、うまくまとめて話ができるか本当に自信がありません。

懸念する事項について、最初の熟議で学校施設の開放という話題がでましたが、危機管理の部分で心配があるということが懸念材料としてあげられました。その対応策として、例えば校舎に入るときの入り口を分けるという方法はどうか、地域の方や保護者が、授業を見る場面と行事に参加する場面とで分けて考えるのはどうか、そうすることで、分けながらも自由に入れるところとそうでないところの住み分けをしていく方法もあるのではないかという話がありました。

それから、管理職が前向きに考えないとダメなのではないかという意見がありました。学校によって差が出るのではないか、管理職が忙しくなかなか前向きに考えられないということもあるのではないかという話もありました。働き方改革との関連も大きいと思いますので、先ほど委員会からの話でもあった、コミュニティ・スクールをコーディネートしていくためのコーディネーターの配置と、その予算措置をぜひお願いしたいと思います。

ほかにもPTAとの兼ね合いはどうなるんだろうか、と心配の声もありました。コミュニティ・スクールが出てくることによって、PTAの会員が減ってしまうのではないかという懸念がありますので、PTAの活動とコミュニティ・スクールとの重なり、兼ね合いの部分をどう擦り合わせていくかが今後の課題となってくるかと思います。

既にある地域行事と学校行事との擦り合わせについて、コミュニティ・スクールを行うことで地域の方と学校を含め情報共有しながら、できるところをマッチングを進めていき、地域の方が学校の下請けではなくて、ともに子どもたちを育てていく視点が必要なのではないだろうかという話もありました。

また、コミュニティ・スクールという初めての取組を進めるにあたっては、何かきっかけが必要なのではないかという懸念もありました。これに対しては、例えば中学校の総合的な学習等の教育課程のなかに含めることで、子どもたちみんなが参加し、体験をし、コミュニティ・スクールの考え方を進めていけるのではないかなといった話がでています。

ほかにも、地域の方に深く広く理解をしていただくため、発信の力も大事になってくるのではないかという意見もありました。高校生の間所委員から「地域の行事ってどんなことをやってるのかわからないことも多い」という発言もありましたので、回覧板だけではなく、SNSを利用するなど、子どもたちにも知ってもらえる発信の仕方が必要なのではないでしょうか。

また、地域で超一流の人を呼んで、本物を見せたり聞かせたりしていくことで、忙しい子どもたちも興味をもって参加をしてもらえるような取組にできるのではないかと、など様々な課題に対し、多くの解決策が出てきました。

まとめとしては、小中一貫と学校運営協議会との在り方についてのモデルを教育委員会から示していただけると、各学校も取り組みやすいのではないかと。またお金の問題も将来的には出てきて、お金の出し入れなどが課題となる恐れがあるのではないかと。ところでグループの話を進めたところです。以上でございます。

○東間委員長 引き続き、Bグループよろしく願いいたします。

○出口副委員長 Bグループの出口でございます。我々は、懸念事項はピンク色の付箋でたくさん出していったのですが、大きく議論したところはこの3つ「CSの理解」「PTAとの関係」「委員選考」です。

まず「CSの理解」ですが、やはり校長先生がどう認識するかによって取組度の違いや温度差、そして地域差も出てくるよねという意見がありました。ほか、管理職だけがコミュニティ・スクールをやっていて、ほかの先生は遠巻きに見ているというケースもあるが、そうならないためにはコミュニティ・スクールについて正しく理解することが必要だよね、と意見がありました。

解決策としては、研修の充実が欠かせないです。先生方に認識してもらうことが大事なので、初任者研修に必ず組み込むとか、全ての教員を対象にした研修をやるとか、さらに地域の人たちを対象にした研修もあるべきだよねという意見が出ました。

そして行政としての関わりも大切です。先ほどの報告で、コミュニティ・スクールについて語れる校長先生を作っていこうとありましたが、それ以前に、語れる行政職員が必要です。札幌市内の学校は約300校あるなか、私だけで300校全て説明に回ることはできませんので、指導主事の皆さんにも語れるようになっていただいて、全ての学校のニーズに対応していただきたいと思います。

それから「PTAとの関係性」も我々も話をさせていただきました。今回視察した岡山市の場合は、コミュニティ・スクールの下部組織としてPTAを掲げていたというのが非常に印象的でしたが、本当にあのようなかたちで良いのかという議論がありました。さらに保護者の参加が少なくなってしまう、コミュニティ・スクールが動き出したら全てコミュニティ・スクールに任せて良いのではないかと。議論からPTAが廃止になったところもあるようです。もうPTAでやることはないんだという認識で廃止に

なったようですが、そうではなく、これを機会にいかにかP T Aも活性化していくのかという議論になれば良いと思います。

P T Aとコミュニティ・スクールの活動の差別化や関係性の整理がとても大事なのではないかとありますが、P T Aとコミュニティ・スクールとの関係性は役割分担というよりも協働なのではないかと思えます。いままでP T Aがやってた活動を、コミュニティ・スクールで議論して地域の方が協力して取り組んでしまうと、P T Aのやる事がなくなってしまうという話がありますが、そうではなく、協働というかたちで関わっていくべきではないかと思えます。

そのためには、コミュニティ・スクールのメンバーにP T Aの人たちが関わって、中心になっていくべきなのではないか、ただし会議に出てきていただく人は、P T Aの代表ではなく保護者の代表だという認識を持つ必要があるのではないかという意見がありました。さらにP T Aが学校に歩み寄るという取組も大事なのではないのでしょうか。

最後に「委員選考」については、学校評議員制度からどう繋いでいくのかという懸念や、コミュニティ・スクールのメンバーにどういう人を選ぶかという懸念があります。やはりコミュニティ・スクールのメンバーには、実際に地域活動している、動ける人たちを積極的に入れるべきじゃないかという話になりました。さらに学校評議員制度のイメージを引きずらないことがとても大事で、評議員がメンバーの多数を占めてしまうと、評議員のイメージをもったコミュニティ・スクールになってしまい、暗い雰囲気になってしまうのではないかと思えます。

こんなことを議論させていただきました、以上です。

○東間委員長 引き続き、グループCよろしくお願いします。

○尾崎委員 Cグループでございます、尾崎が報告いたします。我々のグループのメンバーには、高校教員、幼稚園の先生、地域の方、高校生がおりますので、懸念についても、高校としての懸念、幼稚園としての懸念、地域の懸念、生徒の懸念と分けて考えることにいたしました。

1番ネガティブなことを書いているのは私ですね。非常にネガティブなんですけども、どうしても形骸化していくのではないかという不安や懸念があります。あとは見通しが非常に重要になってくると思うのですが、見通しがもてないと、先生方は非常に不安を感じます。それは地域の方や保護者も一緒に、当然生徒も見通しがもてないということは非常に不安だと思います。

幼稚園の先生からは、現在、青少年育成やサタデースクールなどいろいろな既存組織がありますが、それらがきちんとうまく整理されてこのコミュニティ・スクールに入っていれば良いが、どのように入っていくかが懸念材料ではないか、とお話しされていました。

小学校のサタデースクール運営協議会会長をされている駒ヶ嶺委員は、地域の方から「私は駒ヶ嶺さんじゃないから」とよく言われるそうです。駒ヶ嶺さんにはできるけど私はできないわ、何かやらされるんじゃないか、嫌だな、というふうに思われる方が非常に多いので、そういう方の不安を取り除く必要があるという意見がありました。

生徒の立場では、「学校差がでる」との意見がありました。本当にそのとおりで、学校で差が間違いなくついていきますよね。コミュニティ・スクールができて、熱く語れる校長がいて、いろいろなスタッフがいて、そういった方々が集まったところはずごく良いコミュニティ・スクールになります。しかし、そうではないところも「あそこの小学校はちゃんとやっているのに、うちはどうなの」とならないようにしっかりやってほしいな、ということが高校生の委員から言われています。

ほかにも、先ほどもありましたが、不審者が入るかもしれないという意見もありました。あとは、非常に大きいところだと思うのですが、信頼関係をしっかり築いていかなければならないだろう、コミュニティ・スクールで地域、保護者、学校の信頼関係を築くためには、丁寧な説明が必要になってくるのではないかという意見もありました。

それぞれの対応策として出てきたことは、見通しの点では、実施に向けて事前にしっかりと具体的な計画を立てていくことが必要なのではないかということ。地域と学校の共通の課題解決に向けてどのようにやっていくのか、みんなの協働体制がどのようにとれるかということ。

最終的には、先ほどありましたように、熱く語れる校長を札幌市がどれだけ作れるかということかと思えます。私自身まだ勉強不足なので熱く語れません、それはなぜかというコミュニティ・スクールをあまり知らないからです。もっともっと知らなければなりませんし、コミュニティ・スクールがどのように学校や生徒を良くしていくかをきちんと語れるような管理職を作っていくということが大切です。ほかにも、予算、もの、人についても、教育委員会にはよろしくお願ひしたいと思えます。

札幌市の強みとして、幼稚園、小学校、中学校、高校、大学と持っていることがあげられます。ここを生かしていかない手はないと私は思っています。私は高校の教員です

が、小学校・中学校になるべく関わりたいと思っています。それと同じように、札幌のストロングポイントを生かしたコミュニティ・スクールを作っていただきたいなと思います。

○東間委員長 ありがとうございます。3つのグループ、非常に細かなところまで、付箋を貼っていただきました。私は、これは「懸念」という言葉ではなく、逆に前向きさというか、これならできる、やるぞという裏返しのように感じました。

こういったところをもっと丁寧にプランニングしよう、もう少しちゃんと示そう、お互いに理解していこうといったことが、今日明らかになったのではないかなと思います。

次回の会議では、事務局から計画素案の提示があると先ほどお話がありました。ぜひ、今日の各グループの話し合いの内容も踏まえて、素案の提示を期待させていただきたいと思います。

それでは熟議の終了時間がきてしまいましたので、今日のところはこれで一旦終わらせていただくということでよろしいでしょうか。

(異議なし)

3 事務連絡

○東間委員長 最後に、事務連絡等ありましたら事務局からお願いいたします。

○事務局（教育課程担当課長） 皆さまお疲れ様でした。会の中でもご説明をさせていただきましたが、第3回、第4回の会議につきましては、比較的時間をあけずに協議できる日程にしたいというふうに考えております。4月に入りましたら日程調整をさせていただきますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

また、コミュニティ・スクールの導入に向けた検討については、現在、教育課程担当課で担っておりましたが、次年度新たに「学びのプロジェクト担当課」という部署が新設されることとなっております。

本日、学びのプロジェクト担当課長に着任予定の田中が来ておりますので、一言ご挨拶させていただいてよろしいでしょうか。

○田中学びのプロジェクト担当課長 皆さまお疲れ様でした。学びのプロジェクト担当課長として4月から業務させていただくことになりました、田中と申します。よろしくお願いいたします。

今日皆さまの議論を見て、非常に活発だと思いましたし、付箋1つ1つに思いと重みと、2回目は特にもっと重みを感じました。その重みを逆にバックボーンにして、前向きに頑張っていきたいと思っておりますので、4月からよろしく願いいたします。

○東間委員長 ありがとうございました。

4 閉会

○東間委員長 それでは、本日はこれもちまして、第2回「札幌らしいコミュニティ・スクールの在り方検討会議」を閉会いたします。お疲れさまでした。

以 上